

問	当事者	ア 内面 (当事者の気持ち, 考え)	イ コンセプト (解決策の基礎となるもの)	ウ 効果 (解決によりどのようなになるか)
公募委員の応募を増やすには、どうすればよいだろうか。	市民	<ul style="list-style-type: none"> ○公募委員の役割が何かわからない。 ○募集情報が手元に届かない。 ○会議にどのような人（年齢や性別など）が参加しているか分からず不安。 ○委員の敷居が高く感じ尻込みする。 ○応募書類の提出が面倒。 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員の敷居を下げ、興味がある人が応募しやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○応募する勇気が湧かない方が気軽に応募できるようになる。 ○公募応募者数がゼロの機関が無くなる。 ○（新たな視点加わり）審議が一層深まる。

問	当事者	ア 具体的な取組	イ 取組は誰のためのもの？	ウ 取組で得られる効果は？	エ やるための条件
公募委員の応募を増やすには、どうすればよいだろうか。	市民	○公募の応募電子化	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会 ○公募に興味がある市民 	<ul style="list-style-type: none"> ○応募するハードルが下がり, 気軽に応募できる ○応募者数が増加し, 多様な視点による審議が実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○事務取扱マニュアルの変更 ○附属機関, 懇談会所管課の理解と実施目的の共有
		○会議風景や会議情報の発信（ホームページ, SNS）	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会 ○公募に興味がある市民 ○会議参加者 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員の役割について理解が深まる ○会議を身近に感じる ○応募者数ゼロの機関が解消 ○参加者がSNS投稿を閲覧し,モチベーションが向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会所管課の理解と実施目的の共有
		○落選者に対する, 他の公募の案内	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会 ○公募落選者 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲をもって応募された方の会議参加 ○応募者数が増加し, 多様な視点による審議が実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会所管課の理解と実施目的の共有
		○委員等経験者による紹介	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会 ○公募に興味がある市民 	<ul style="list-style-type: none"> ○適任者の選出により, 多様な視点による審議が実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○附属機関, 懇談会所管課の理解と実施目的の共有